

《書 評》

「老人のリハビリテーション」改訂第3版

福 井 罔 彦 著

本書は、いろいろな病気からのリハビリテーションを網羅しており、リハビリテーションという言葉の意味を十分理解させる内容である。つまり、リハビリテーションといえば、運動障害あるいは言語障害に限って使用されるという従来の漠然とした考え方を改めさせる本である。

第3版であり、初版から約10年を経ており、多くの人々に愛読されていたことが解る。

内容は、まず老人人口の推移について述べ、老人の問題の基本的な概念が得られる。次いで老人と老化現象について細胞レベルから臓器、器官レベルまでを解り易く解説してある。続いて、老人の訴えの特徴とその接し方として、具体的な問題の注意点などをきめ細かに説明されている。

主な老人性疾患とそのリハビリテーションの実際の章は、本書の最も特徴的な所である。著者が長年リハビリテーションにたずさわってきたエキスパートであるだけに圧巻である。

まず、老人の心身障害の特徴とリハビリテーション上の問題点として、廃用症候群、低運動症候群、誤用症候群などのあまり聞き慣れない言葉の説明から始まる。そして、神経系疾患とそのリハビリテーションは脳血管障害を中心に、とくに著者が得意のところであり、微に入り細に入り述べられている。そこには運動障害、言語障害のリハビリテーションのすべてがあり、リスク管理にも触れられており、失語、失行についても詳細である。

循環器疾患とそのリハビリテーションでは各種心臓疾患の説明と具体的なリハビリテーションが述べられており、一般内科医に役立つことが多い。

老人の慢性呼吸器疾患のリハビリテーション、運動器疾患のリハビリテーションは具体性がありかつ解り易いイラストがあり、ユニークである。

そして尿路疾患のリハビリテーション、精神疾患のリハビリテーションとつづく。

以上が本書の中核をなす章であるが、さらに、老人と性の問題についても章を改めてとりあげられている。

寝たきり老人およびその対策の章では社会的対策も述べられている。続く老人の健康管理の章は具体性がある。さらに、老人のリハビリテーションに関しての家族の心得・指導の章があり、老人の社会的リハビリテーションと老人福祉行政の章ではいろいろな福祉対策の説明又老人保健法の説明がなされている。そこでは最後に今後の方向についての著者の見解が述べられている。

本書は平易な文章で解り易く医師、看護婦、理学療法士、作業療法士、言語療法士はもちろん、保健婦、老人ホーム寮母、あるいは一般の人々にも役立つ老人のすべてを述べた良書であり、福井罔彦博士の御努力に敬意を表したい。

(B5 頁 300 図 42 写真 2 ￥ 4,000 円 300

医学書院 1984)

(浴風会病院 医師 大友 英一)